

第20回

医療経営革新のための

訪米研修プログラム

<2016年>

— 経営の質と統合経営のあり方を学ぶ —

企画・コーディネイト：盛 宮喜

<訪問地および訪問予定機関>

◇ セントルイス

ミッドアメリカトランスプラント

セントルイス子供病院 (SLCH)

バーンズ・ジューイッシュ病院

◇ ワシントン D.C.

国立標準技術研究所 (NIST)

米国在宅ケア協会 (AAHomecare)

レストンホスピタルセンター

リーディングエイジ

◇ アトランタ

エモリーヘルスケア (EHC) / エモリー大学病院 (EUH)

ウエスレーウッズセンター

ウエルスターアトランタ医療センター

主催：米国公益法人 日米文化センター

推薦：一般社団法人 日本医療法人協会

■はじめに

医療改革を先取りするために

日米文化センター主催の「医療経営革新のための訪米研修プログラム」は今年第20回目を迎えます。これまでは、首都ワシントンと医療団体の活動拠点であるシカゴを中心に、マルコム・ボールドリッジ賞を受賞した経営力の優れた病院を訪ね、医療の質や医療改革、環境変化への取り組みなどについて学んできました。

今回はオバマ医療改革で登場したアカウントブルケア・オーガニゼーション(ACO)などのプライマリケア充実策、並びにリハビリテーションや在宅医療を中心にポスト急性期医療と介護老人保健施設や高齢者医療のあり方を学び、日本の医療改革を先取りできる実践的で有益な研修プログラムを組みました。

■研修日程（案）

11月2日（水） 成田発 セントルイス着	11月8日（火） 国立標準技術研究所（NIST） 米国在宅ケア協会（AAHomecare）
11月3日（木） ミッドアメリカトランスプラント セントルイス子供病院（SLCH）	11月9日（水） ワシントンD.C. →アトランタ
11月4日（金） バーズ・ジュエイッシュ病院	11月10日（木） エモリーヘルスケア／エモリー大学病院 ウエスレーウッズセンター
11月5日（土） セントルイス→ワシントンD.C.	11月11日（金） ウエルスターアトランタ医療センター
11月6日（日） 自由行動/中間報告会	11月12日（土） アトランタ発 帰国の途へ
11月7日（月） レストンホスピタルセンター リーディングエイジ	11月13日（日） 成田着

※日程につきましては、訪問先の都合、参加者のご要望等により若干の変更があり得ますこと予めご了承ください。

■実施要綱

- [期 間] 2016年11月2日（水）～11月13日（日）（12日間）
[参加人数] 20名（定員になり次第締め切ります。お早めにお申し込み下さい。）
[申込締切] 2016年9月23日（金）
[申込方法] 参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送かホームページからお申し込み下さい。
[参加費用] 88万円

◎費用に含まれるもの

- | | |
|---|---|
| ①研修プログラムのコーディネート費 | ②研修期間中の移動交通費 |
| ③現地セミナー参加費、通訳料、講師謝礼、記念品等 | ④研修期間中の宿泊費および朝食費
(原則として昼食費・夕食費は自己負担) |
| ⑤成田→アメリカ往復の航空運賃
(エコノミークラス利用。ビジネスクラスご希望の方は別料金にて承ります。) | |

※研修期間中は**通訳**がつきますのでご安心下さい。

■研修ハイライト

1. マルコム・ボールドリッジ賞(大統領賞)が問う経営の質

2025年に向けて生き残りをかける病院は、医療の質ばかりではなく経営の質も問われる。企業の競争力を向上させるために創設され、大統領が表彰するマルコム・ボールドリッジ国家品質賞を運営している国立標準技術研究所(NIST)と2015年に医療部門で同賞を受賞したミッドアメリカトランスプラントを訪問し、医療と経営の質の改善とわが国の今後の移植医療について考察する。これは本研修最大の特徴。

2. 統合医療へ一貫したトレンド

大学病院や一部巨大病院を頂点とする、米国の医療統合(Integrated Health Network)の動きは一段と進んだ。その仕組みと運営成果を把握して、わが国における医療機関集約化に対処するノウハウを探る。

3. 在宅ケア、施設ケアの革新的取り組み

在宅ケア、施設ケアに関わる団体を訪ね、高齢者ケアへの革新的取り組みを追求する。

4. プライマリケアを軸にした医療改革

米国の医療改革法(The Affordable Care Act、通称オバマケア)がもたらした現場における医療改革をつぶさに観察し、2025年に向けたわが国医療変革の道筋を考える。

5. セントルイスからアトランタへ

セントルイスは、開拓時代から西部へのゲートウェイの町として知られてきた。その象徴である高さ192m(ビルの60階相当)のゲートウェイアーチは壮観。人口約32万、中西部有数の産業都市であり、ビールのパドワイザーが生まれた町としても知られている。アトランタは不朽の名作映画「風と共に去りぬ」が誕生した町。1996年のオリンピック開催地として知られる。人口約45万の米国南部有数の都市で、現在は全米各地や欧州、アフリカ、南米のハブ空港を抱えて発展している。

■訪問先概要

今回訪問予定の団体は以下のとおりです。(交渉中を含む)

<セントルイス>

ミッドアメリカトランスプラント Mid-America Transplant

ミズーリ州東部に位置する商工業都市セントルイスにあるミッドアメリカトランスプラントは、1974年に設立された民間非営利の臓器提供機関(OPO)、アイ・組織バンク。ミズーリ州東部、イリノイ州南部とアーカンソー州北東部84郡、470万人の住民に対し、臓器移植に伴うあらゆるコーディネイトと一連の移植プロセスを提供している。122病院、4移植センター、7人の身体組織の専門家や地域の複合組織とパートナーシップを結んでいる。拠点病院には、同機関のスタッフが常駐して臓器の調達を確実にしている。通常、病院での臓器取得にはドナー1人当たり2万ドル(約200万円強)を要するが、同施設では約7,000ドル(約70万円)。2001年に建設された米国初の単独移植手術施設により、2002年にはそのコストを4,000ドル(約40万円)にまで削減している。2014年の臓器移植数618件、年間予算額3,900万ドル、従業員数193名。2015年マルコム・ボールドリッジ賞受賞。

バーンズ・ジュewish病院 Barnes-Jewish Hospital

1996年、バーンズ病院とジュewish病院の統合により創設されたワシントン大学医学部の教育病院。セントルイス周辺の医療ネットワークであるBJCヘルスケアシステムの基幹病院でもある。1,800名の医師はその多くが「米国Best Doctors」として認定されている。ベッド数1,323床、年間手術数は入院、外来患

者合わせて4万件強で、病院規模はミズーリ州最大である。アメリカ看護協会認定センター(ANCC)が最良の看護を提供する医療機関に授与するマグネットステイタス賞のミズーリ州初の受賞病院。US News & World Report誌 Best Hospitalsの中でも上位病院にしか与えられないHonor Rollに23年連続で認定されているほか、2015年には、同誌Best Hospitalsに14科が全米トップ20入りしている。

セントルイス子供病院 St. Louis Children's Hospital (SLCH)

包括的な小児内科外科専門医療を提供しているワシントン大学医学部教育小児病院で、BJCヘルスケアの中核メンバー。1879年創立の全米で7番目に古い子供病院。280床、年間訪問者27万5,000人、従業員3,000人、医療従事者800人、介助補佐とボランティア1,300人が働いている。セントルイス地区に限らず、世界中の子供医療に対応している。2016年のU.S. News & World Report誌では10診療科全てが米国のトップ小児病院の1つにランクインしたほか、2015年アメリカ看護協会認定センター(ANCC)が提供するマグネットステイタス賞を再受賞した。再受賞病院は全米で3%に過ぎない。

<ワシントンD.C.>

国立標準技術研究所 National Institute of Standards and Technology (NIST)

マルコム・ボールドリッジ賞と呼ばれる国家経営品質賞を授与する米国商務省附設の連邦機関。同賞は全米の企業や組織が提供する商品やサービスの品

質を評価することにより、企業業績を向上させるため、1987年に創設。製造業、サービス業、中小企業、教育、医療など部門別に授与し、大統領自らが表彰を行う。医療部門では2002年から2015年までに20病院が受賞。

米国在宅ケア協会

American Association for Homecare (AAHomecare)

米国在宅ケア協会は、呼吸、点滴療法や複合移動補助製品など在宅医療設備の提供者や製造業者を代表する協会。在宅ケアを必要とする米国人数百万人が継続して自由にケアの利用ができるように活動している。全米50州で大小合わせて約3,000施設が会員となっている。同協会は、メディケアと連邦政府のプログラムが在宅ケアに不当な負担を課さず、また不利なビジネス環境を創出しないよう、議会や政府、メディケアメディケイドサービスセンター(CMS: 米国保健社会福祉省の公的保険制度運営センター)、その他の政府機関でロビー活動を行っている。

レストンホスピタルセンター

Reston Hospital Center

ワシントン郊外のレストン中心部に1986年に創設されたレストンホスピタルセンターは、北バージニアの地域住民に急性期医療や外科手術など多様な医療サービスを提供している米国最大規模の営利病院チェーンHCA傘下の総合病院。母子健康医療、入院患者、外来患者の手術、碎石術などの泌尿器科治療、最先端のがん放射線治療、リハビリテーションプログラム、高度な画像診断機能等、幅広い分野で専門性を発揮している。24時間体制の救急医療センターでは、平均待ち時間4分で最先端技術を駆使した高度な緊急医療を提供している。

リーディングエイジ

LeadingAge

リーディングエイジは、情報を共有し、様々な視点からエイジングを考慮するよう共同で国に提言し、働きかけることを目的に1961年、エイジングサービス関連機関、企業と消費者グループが一体となって発足した協会。高齢者の可能性や活躍の場の拡大を目指している。会員とパートナー数は6,000強。同協会は世界30か国で活動している国際高齢者ホームサービス協会(IAHSA)の会員でもある。

<アトランタ>

エモリーヘルスケア/エモリー大学病院

Emory Healthcare (EHC)/Emory University Hospital (EUH)

ジョージア州北西部に位置する都市、アトランタにあるエモリーヘルスケアは、6病院、200診療施設、70診療科、2,000人の医師がチーム医療を提供するジョージア州最大の統合医療ネットワークシステム。その基幹病院である1904年創設のエモリー大学病院は、エモリーシステムの急性期成人患者専門病院で、教育病院でもある。年間の入院患者数2万4,000人、外来患者数8万人、ベッド数579床。心臓病、心臓外科、がん、神経科に定評があり、特に心臓治療プログラムにおいて、ここ数年U.S. News & World Report誌で全米トップ10にランクインしている。

ウエスリーウッズセンター

Wesley Woods Center

1987年創立のウエスリーウッズセンターは、高齢者医療に特化した初の急性期総合外来医療施設の一つ。アトランタと南東部地域の成人および老年精神医療の主要病院でもある。ベッド数40床、入院と外来患者への電気けいれん療法(ECT)や老年精神医療のデイケアプログラムを実施。医師、看護師、ソーシャルワーカー、職業カウンセラーがチームを構成し連携して患者の治療にあたる。気分障害や精神障害などの精神疾患の治療に実績を上げている。

ウエルスターアトランタ医療センター

WellStar Atlanta Medical Center

ウエルスターヘルシステムは、エモリーヘルスケアと双璧をなすジョージア州最大のヘルシステム。1994年に発足した傘下のウエルスター医療グループ(WMG)は、一次医療、専門医療、救急医療のシームレスな統合医療を提供している。システム全体で11病院、8救急治療センター、16画像診断センター、2健康診断・小児科センター、1高齢者用集合住宅、3高度看護施設、3入院患者用ホスピスを有し、医師1,000人、医療従事者2,500人、従業員2万人が治療にあたる。基幹病院のアトランタ医療センターは、536床、医師数377人、昨年の救急外来者数5万7,800人強、入院者数約1万4,000人。手術患者数は入院外来患者合わせて約8,000人の総合病院であり、2キャンパスを有する教育病院でもある。

米国公益法人 日米文化センター

日米文化センターは、1978年に米国の首都ワシントンD.C.に設立され、ワシントンと東京を拠点にさまざまな日米交流事業、教育研修プログラムを実施している米国の公益法人です。

《お問い合わせ》 日米文化センター日本事務所

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-2-2 一般財団法人国際教育振興会内

日米文化センター「医療経営訪米プログラム」係

TEL (03) 3359-0576 / 3359-0561 FAX (03) 3359-0562

Email: iryjo@usjpcc.com HP: www.usjpcc.com/

医療経営革新のための訪米研修プログラム

1997～2015 年度参加者派遣病院、会社、団体

病院、会社、団体名	人数	病院、会社、団体名	人数
アイ・ティーアイ株式会社	2	慈生会本部	2
阿蘇立野病院	1	慈生会ウエルフェア九州病院	2
安部第一医院	1	清水建設	1
アルケア	1	ジョンソン・エント・ジョンソン メディカル	1
礒病院	1	新浦安虎の門クリニック	4
いちょうの樹	1	仁医会	3
淡路かおりの丘病院	1	新生会	1
飯塚病院	1	新虎ノ門会本部	1
入江病院	2	生命保険協会	1
磐城済世会本部	4	千寿製薬	3
磐城済世会長春館病院	1	総合メディカル	24
磐城済世会松村総合病院	4	ソニー株式会社	1
植村病院	1	医療法人大雄会本部	2
A & A	1	大雄会総合大雄会病院	3
エス アール エル	1	大雄会第一病院	1
エルクコーポレーション	1	高の原中央病院	4
大阪大学医学部附属病院	1	高浜内科	1
太田総合病院付属太田西ノ内病院	1	立澤竜次公認会計士事務所	1
大塚製薬株式会社	1	地域医療システム研究所	1
織田病院	2	長銀総研コンサルティング	1
偕行会名古屋共立病院	3	帝國製薬	3
岐阜県総合医療センター	10	テルモ株式会社	2
久幸会今村病院	1	東員病院	1
行田総合病院	1	東京都老人医療センター	1
京都大学医学部付属病院	1	豊島中央病院	1
くじらホスピタル	3	名古屋記念病院	2
熊谷医院	1	日揮株式会社	1
慶應義塾大学病院	1	日経BP社	1
敬和会大分岡病院	1	日本医療経営研究所	1
敬和会グループ	2	日立製作所	9
敬和会戸嶋病院	6	平針記念クリニック	1
健康保険人吉総合病院	1	広島国際大学	2
光生病院	3	富士メディカルシステム	1
国際医療福祉大学	1	文京学院大学医療経営アカデミー	1
国保旭中央病院	2	ホギメディカル	2
済生会熊本病院	16	松阪中央総合病院	1
済生会横浜市東部病院	5	三菱商事	1
産業医科大学病院	1	三菱総合研究所	1
GE横河メディカルシステム	2	吉岡経営センター	1
J A栃木厚生連下都賀総合病院	2	ライフタイムパートナーズ	3
シグナ傷害火災保険	1	レオクラン	17
特別コース 医療法人白十字会	6	合計	204

オリジナルプログラムの企画、コーディネートもいたします

日米文化センターでは、病院、病院協会、健康保険組合、医療経営コンサルタント、医療関連ビジネスの会社、業界団体等のご要望に応じ、アメリカにおける病院経営の現状と展望、ヘルスケア産業の構造変化、医療ビジネスの動向など特定のテーマや目的に則して研修、視察するオリジナルプログラムを企画、コーディネートいたします。